

# ぱちんこ 言葉物語

③⑨

## デカチリ

広報委員会の席上で何気なく企画されたこの「言葉物語」も、はや4年目に突入しております。至らぬ文章の数々をご披露することは今なお恥ずかしいのですが、今後とも気楽にお付き合い頂ければ幸いです。さて、今回は連続する一体型図柄の元祖「デカチリ」に焦点を当ててみたいと思います。

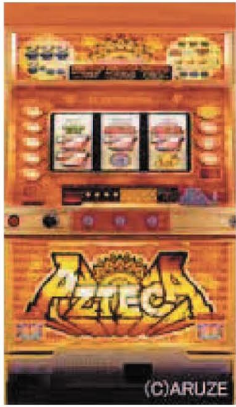
「デカチリ」は1999年にエレクトロコインジャパンからデビューしたパチスロ「アステカ」に採用されました。2コマ分の大きさを用いて一体型のデザインとすることや、7枚役（ファンは「下チリ」と言っていた）を透過図柄として透けて見えるように工夫されたため、目押しが楽になり、CT機の難易度が高く敬遠していたファンの獲得に大きく貢献し、持ち前の高スペックと共にその後の遊技機

デザインにも大きな影響を及ぼすことになりました。

### 丸いデザインの意味は

通常、目押しをサポートする図柄をデザインするには、主に長方形又はリールの反対色（アステカのリール色は白の為、黒などが見やすい）を用います。アステカで用いられた「デカチリ」は透過図柄採用による見易さはありますが、何故円形という形だったのでしょうか。

私はこの機種が発表された時にこの図柄を見て、即座にメキシコ国立人類学博物館に展示されている「太陽の石（アステカカレンダー）」を思い出しました。それはアステカ文明に住まう人々をはじめとする人類の世界観が表



デカチリ図柄がある「アステカ」。エスニックなデザインと至高のリール制御で一躍大人気。©ELECO ©ARUZE

現されている「円形」の石板です。ここには地球誕生から人類の未来までのすべてが書かれていると言っても過言ではなく、また13・4・7といった縁起数字の起源にも通ずると

され、現代にまで繋がるアステカ文明をはじめ人類歴史上からも極めて重要なものなのです。

太陽の石を話すととても書き切れませんのでパチスロの話に。アステカ文明を象徴する太陽の石の形状から、アステカの最重要図柄「デカチリ」は、円形の太陽の石をモチーフに作られたのではと思っていました。図柄上では特段模様として太陽の石の特徴が盛り込まれた形跡はありませんでしたので違うのかなとも感じていました。

その中、正統後継機「アステカレジェンド」のデカチリの模様には、太陽の石の中にある太陽光線のシンボルと呼ばれていた模様が図柄の中に盛り込まれました。世界観の表現はやはりこのような細かいところにも開発者は注ぎ込んでいたのだと改めて感心させられたものでした。



上は初代アステカで、下は後継機アステカレジェンドの小冊子より。後継機ではモチーフがさらに盛り込まれていることがわかる。よくみると隠し文字も？

### 開発者の深い思いが

何気なく見ていたものが、実は調べてみると奥が深かった。よくある話だと思います。タイアップ機では良く音楽や場面の採用でこのような話が出ますが、タイアップが無かった当時の遊技機では、図柄一つに対しても世界観を自らが作り出し表現していました。図柄や筐体デザイン一つにも開発者の思いがたっぷり込められている事がお分かり頂けたかと思えます。普段何気なく打っているその機種の細かいところ、もう一度良くご覧下さい。ひとつしたら開発者やデザイナー達の隠されたメッセージや思いが見えてくるかもしれません。

※CT・チャレンジタイムの略。特定条件をクリアするといずれかのリール制御が無制御になり、目押しで自由にコインを獲得できる状態になる。

(大和田敏男)

## 革新的で目押しも楽に